

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 69,374 千円 (前年度予算額： 133,562 千円)

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	133,562	35,817	0	19,705	0	0	1,000	0	77,040
要求額	69,374	0	0	24,577	0	0	1,000	0	43,797
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県美術館の豊かな所蔵品を活用した展示や、多彩なテーマの企画展、アートまるケット事業等の開催経費を措置する。美術館は様々な展示やアートシーンを取り揃えた美術鑑賞の機会と共に、世代を超えて全ての人々が美術を楽しみながら、社会の中における新たな役割が求められている、生きる力・イメージする力を育む美術館活動の場を創出すると共に、現代における所蔵品の価値を伝え広めていく調査研究・広報活動を進めていく。

所蔵品展では、R6～7年度に開催し好評を博したルドン展以降、全国から問い合わせが殺到しているオディロン・ルドンの作品を紹介する展示を、テーマを変えながら年間を通して紹介する。他、西洋絵画、日本画、工芸、現代美術まで幅広く豊かなコレクションを見せ、魅力を発信する。また企画展ではアフリカを中心に現代美術の諸相を紹介する企画展、印象派からエコール・ドパリまでを紹介する西洋美術展、郷土の日本画家土屋禮一の画業を紹介する企画展を開催する。アートまるケット事業では美術を介して人と人との交流が深まる活動を展開する。アートまるケットではルドンコレクションを軸にフランスとの国際交流を実施。アーティスト・イン・ミュージアムではアーティストの制作現場に鑑賞者が出会うことで通常の作品鑑賞では得られない新たな感性を育む。アートコミュニケーター事業では地域の人々が主体的に美術館活動に関わり賑わいを創出する。

(2) 事業内容

ア 所蔵品展示 ※詳細は別紙「岐阜県美術館企画展等計画」参照

《主な展示》

- ・日本で活躍した郷土が誇る作家の顕彰展：「生誕150年記念 北蓮蔵」（早稲田大学と連携予定）、「加藤栄三・東一特集」（仮称）
- ・国際的に評価の高い岐阜県美術館西洋絵画コレクション展示：「ルドン・コレクション」（いつ美術館来てもルドンに出会えるよう、通年展示）、「特集：ポール・ゴーギャン」
- ・日伊国交160周年記念事業：「日本とイタリア」（仮称）

・岐阜県美術館のコレクションの名品を広く紹介する：「絵画セレクション」「屏風展」「工芸展示」（仮称）

	第1期	第2期	第3期	第4期
会期	4～7月	7～9月	10～12月	R9.1～3月
展示替	4/1-6, 5月末, 7/13-	7/13-22, 9/28-30	11/4-16、12/21-26	1/3, 4, 3/15-30

- イ 展示室2の活用（独自企画展）
- ① 新収蔵お披露目展(仮称) 令和8年5月1日(金)～6月28日(日) 52日間
 - ② 佐藤慶次郎の実験(仮称) 令和8年11月10日(火)～12月20日(日) 36日間
 - ③ アートまるケット(エを参照) 令和9年1月19日(火)～3月7日(日)42日間

- ウ 企画展：展示室3で開催（独自企画展）
- ① 「モンスーンに吹かれたように」展 ※令和8年3月13日から開催
令和8年4月1日(水)～6月14日(日) 65日間
 - ② 「西洋絵画名品展—印象派からエコール・ド・パリまで」展（仮称）
令和8年9月24日(金)～12月13日(日) 69日間
 - ③ 「土屋禮一展」（仮称）
令和9年1月13日(金)～3月7日(日) 53日間

- エ アートまるケット事業
- ①アートまるケット2026展示事業(仮)
令和9年1月19日(火)～3月7日(日) 42日間
 - ②アートコミュニケーター（愛称「～ながラー」）活動事業
令和8年4月～令和9年3月まで 事業継続
令和8年11月～令和8年2月まで 次年度新規～ながラー募集事業
 - ③アーティスト・イン・ミュージアム【AiM】事業
令和8年5～6月、10～11月の年2回開催

- オ 企画展準備費
- ・令和9年度事業「開館45周年田口コレクション展」（仮称）のための作品調査。

カ その他：11月3日文化の日・無料開放事業の開催

（3）県負担・補助率の考え方
県民が等しく文化芸術に関わる機会を創出するものであり、県の負担は妥当である。

（4）類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,150	講師謝金
旅費	11,652	打ち合わせ旅費、研修旅費、講師旅費
需用費	13,160	展示用消耗品費、会議費、印刷製本費
役務費	3,021	通信運搬費、保険料
委託料	28,667	作品輸送展示作業、パネル等ディスプレイ作成他
その他	11,724	開催経費分担金、使用料、備品購入費等
合計	69,374	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

（1）事業主体及びその妥当性
県有施設の主催事業に要する経費を措置するものであり、県の関与が妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。

優れた芸術に触れて学ぶ機会を提供し、新しい文化の担い手を育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

展覧会は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度ごとに開催本数や期間も異なるため、達成度を図るような基準数値は存在しない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	開館40周年を記念して「前田青邨展」及び所蔵品による「岐阜県美術館名品尽くし！」を実施。重要文化財を含め多くの優れた美術品を鑑賞する機会を提供し、リニューアルで美術館の機能が上がったことを示した。またレジデンスや教育普及事業を通じて県内教育機関、福祉施設等と連携して活動した。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、これによって以前の生活様式が復活、余暇を外出して過ごす人が目に見えて多くなった。それに伴い美術館を訪れて展示を楽しむ鑑賞者も増加した。上半期の「AAIC2023」、「わかやまけんの世界」展、いずれも若者から年配まで幅広い層が来館し賑わった。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	岐阜県出身の現代美術家や日本画家の展覧会を開催し、郷土の文化の豊かさについて理解を深める展覧会を開催した。特に「皇居三の丸尚蔵館特別協力 PARALLEL MODE:山本芳翠」と「PARALLEL MODE:オディロン・ルドン」の大規模展2本とルドン展に連動したアートまるケットを同時開催したことにより、国内外から注目される一年となった。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和7年度	アートまるケットでは美術館だけでなく東京にサテライト会場を設置し、絶大な美術館広報効果を得た。地域に根差す歴史文化を伝える企画展「古墳時代から織部、そして現代へ」展を土岐市と協同し開催、美術館に新しい客層が来館する機会となる。11月には国立アートリサーチセンター事業「コレクションダイアログ」展を開催し、コレクションの利活用を行う。また所蔵品展示では郷土作家顕彰展示と教育普及との連携展示、ねんりんピックにあわせた「名品選」開催等、と様々な年齢層や全国からの来館者が楽しむことができる美術館活動を行う予定。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	美術館は県民のニーズに答えて美術品を展示し鑑賞の場を提供するところである。郷土ゆかりの美術家から国内外の著名な作家まで様々な視点から展覧会を行い、広く県民の要望に答えている。また、文化庁等が示す国の文化政策方針の点からみても、美術館が社会から求められる機能は年々広がっている。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	コロナ禍を経て再び、人々が余暇を楽しむために積極的に外出するようになり、美術館の来館者も増加傾向にある。一定の感染症対策は残しつつ、対面の鑑賞・創作プログラム等を増やして来館者のニーズに答えている。また事業の一部オンライン化は引き続き実施され、遠方のため来館できない層へも配慮している。館外での出前講座やナンヤローネアートツアー、アートアクションについても実施先や数を増やし、参加者から好評を得ている。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	企画内容にあわせた所蔵品の展示公開期間調整や、予算規模とニーズ・効果を吟味した企画展を開催するなどの検討を行っている。常に新しい視点での展示紹介を心掛けるとともに、所蔵品の活用や、新聞社や企業の協力協賛を得て内容、広報共に充実させる努力を行っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 リニューアル後の拡張した展示室を通年でフル活動させるため、スタッフ総動員で事業を行っているが、美術館に要求される社会的機能は日々拡大しており常に人員の不足に悩まされている。 特に燃料の高騰による美術品輸送展示にかかる経費の増額は全世界的で問題となっているほか、さらに展示造作にかかる人件費・資材費や印刷費等、基本的な開催必要経費が年々異常高騰する状況は収束する気配が無い。これまでの水準を保つように展示事業を行うためには予算の充実が必須である。	
---	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 美術館のコレクションは県民財産であり、利活用することでその価値を維持し、さらに高めることができる。来館者が美術館での体験を通して日々の生活に生きる力をもたらすことが、現代においては美術館に求められる一つの像である。質の高い所蔵品を県民が誇りに思える、また様々な年代の人々が楽しむことができる多ジャンルの展示・企画を年間通して計画し、開催する。 美術作品の紹介から作家の制作体験、アートコミュニケーターによるアートへの関わり方の新たな提案まで、美術作品だけでなくそこに会する人が主役となる、美術館の幅広いあり方を提案していく。	
--	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	